

二本の杉



幾とせか今も緑に繁り合ひてみそらにそびゆ二本の杉 友呼

二本杉万代やへん亀の丸地を這ふ迄にしづへ茂りて 鶴成

箸立ての杉はとりわけ詠み榮ふ根なしことではあらぬ卯に 兎笑

吹くかぜをかたみにいとひはらからの情やはある二本の杉 同

武士の立てしいさほの名もしるきしるしなりけり二本の杉 梅雄

幾千代か経しかはしらて二本杉榮へ久しく枝葉茂りつ 一誠

城きつくいさほのはしのくちやらて名高く榮ふ二本の杉 鷺樂

今もなほ昔のまゝに繁り合ひて名にこそ立てれふたもとの杉 系丸

武士のたてともなりて丸の内名高く残るすぎの二本 同

そのかみの位にし人の名もたかく茂りて残る二本の杉 同

そのかみのいさほも知るゝ太田てふ名をのこしけり二本の杉 花友

二本のすぎし昔のふることを語るもさすがあわれなりけり 春成

ところから之も室の玉くらげ二本立てる岩槻のすぎ 若芝

ときめきし君の植にし昔をも忍ぶしるしの杉の二本 陰行

其名さへ高き楢のせにかけていや榮へ行く杉の二本 同

枝たれて地をも抱へり高きみきの茂りて千代を杉の二本 本也

名も高く聞へこそすれ丸の内に榮へ榮ふる杉の二本 同

築きにし君のいさほの高き名を千代はし立てし二本の杉 同

武士の昔立てにし二本杉末の世までも残るかしこさ 友呼